

「急速に変化する世の中」
を考える上での”これからの潮流”

	キーワード	サブカテゴリー	論点を探る上での具体的な着眼点の例
1	少子高齢化 (人口構成の変化と超高齢社会)	<ul style="list-style-type: none"> ●労働人口の減少 ●高齢者への対応 ●医療・介護問題 ●世代間格差・世代間移転 ●地域経済の活性化・都市集中 ●空き地空き家問題 	<ul style="list-style-type: none"> ・人口構成の変化による年金制度等の社会福祉制度の見直し ・高齢者等判断能力低下者に対する財産運用・財産管理や金融取引の在り方 <ul style="list-style-type: none"> ≫判断能力低下者に対しては既存の制度や運営では利便性等において問題もある。 ・医療の充実が急務であり医療人材の確保・医療充実への金融支援等新機軸の必要性 ・介護施設・介護職員の不足は深刻な課題 ・金融資産の世代間移転や地域間移転によるメリット・デメリットをどう活かすか ・都市への集中がもたらす地域経済の低迷も深刻な問題であり様々な角度からの地域活性化が急務 <ul style="list-style-type: none"> ≫地域経済の活性化には地域金融の役割が大きいが、例えばふるさと納税という寄付制度を基に金融を通じて自治体他地域の活性化に繋がる仕組みが考えられないか。 ・空き地空き家の増加による社会問題の深刻化に打つべき手として金融は何ができるのか <ul style="list-style-type: none"> ≫空き家のみならず独居老人の増加も深刻であり、居住権という概念を整理して活用する等不動産の権利に対する新たな概念が必要になる。
2	テクノロジーの進化	<ul style="list-style-type: none"> ●Fintechの進展と広がり ●決済手段の多様化 ●インターネットによるフラット化 ●クラウドサービス ●ビッグデータの活用 ●スマホ社会 	<ul style="list-style-type: none"> ・Fintech と呼ばれる IT と金融の融合により金融取引に対して様々な工夫が進化中 ・AI (人工知能) を駆使することによるイノベーションの向上 <ul style="list-style-type: none"> ≫既に金融の多くの業務で AI は活用されているが、分析業務等においてまだまだ AI の活用範囲は幅広く考えられる。 ≫金融機関の店頭やオフィスでロボットが活躍できることは何だろう。 ・ブロックチェーンの活用による仮想通貨の効用をベースとした新たな通貨概念の導入 <ul style="list-style-type: none"> ≫クレジット・カードのポイント制も一種の仮想通貨と捉えることもできるが、このポイント制を新たな金融概念として活用できるのではないか。 ・テクノロジーの進化に基づく資金決済が多様かつ効率性を増すが安全性をどう確保するか ・クラウド環境の活用による新しいビジネスモデルの模索 ・ビッグデータを本格活用することで公共手続きに限らず様々な効率化等大きな変化が考えられる ・スマホを活用して金融取引が可能となることで金融機関の店舗はどうなる？
3	グローバル化の進展	<ul style="list-style-type: none"> ●国内市場の成熟による海外進出 ●テクノロジーの進化による横の繋がりスピード・アップ 	<ul style="list-style-type: none"> ・先進国といった成熟国家における新たな市場開拓として海外進出する上でどのようにwinwinを勝ち得るか <ul style="list-style-type: none"> ≫特に新興国へのビジネス展開が重要かつ進行しているが、新興国に対して受け入れられる金融事業の在り方とはどのようなものだろうか。 ・海外との情報発信やコラボレーションを行なうのも容易な世界になっている
4	エネルギー・環境問題の深刻化	<ul style="list-style-type: none"> ●自然資源の枯渇 ●サステナビリティの発想 	<ul style="list-style-type: none"> ・急速な世界人口の増加と限りある資源との間で自然資源の活用について大きな認識転換が必要 ・自然資本に対する価値認識の視点が重要になってくる ・企業や個人等のどのステイタス・レベルにおいても活動の持続可能性を念頭に置くことが不可欠 ・スマートシティという都市創造のみならず都市の運営をどうするかが大事
5	金融・市場の変化	<ul style="list-style-type: none"> ●マイナス金利または超低金利時代の継続 ●アベノミクス ●民法改正 ●東京五輪 	<ul style="list-style-type: none"> ・マイナス金利という我が国で初めてのマーケット環境において従来の金融の常識を打破する発想が必要 ・アベノミクスによる金融政策・財政政策・成長戦略という政策の行きつく先を見据えることが大事 ・債権法改正・相続法改正といった法律上の新たな枠組みを見据えて金融はどのように変化するか ・2020年の東京オリンピック開催へ向けていよいよ始動する中で観光立国目線も含めてどのような先進性を見出すか <ul style="list-style-type: none"> ≫五輪では多くの外国人が押し寄せるが金融面においてどのようなリソースが求められるか。
6	信託の活用の広がり	<ul style="list-style-type: none"> ●民事信託・家族信託の活用 ●2006年の信託法大改正後の新たな類型の信託の活用 ●公益信託法の改正 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化等に伴い家族のための財産管理等を目的として家族が受託する信託が広がりつつあるが問題も多い <ul style="list-style-type: none"> ≫信託が、正しくかつ安全に活用され、広がるためにはどのような取組が必要か。 ・信託法の大改正によって信託を活用して新たにできることが増えたがまだまだ活用の余地がある ・公益信託の活用に広がりが見られる取り組みが動き始めた <ul style="list-style-type: none"> ≫富裕層等による寄付や遺贈のニーズが高まっていると言われるが、安心して寄付ができる枠組を整備することで社会の活性化に繋げる方策がないか。(上記の地域経済の活性化に繋がる寄付制度とも関連して考えることもできる。)

【金融機関の将来ビジョンを考えるに当たって】

・世の中は急速に進化し続けており、足元から将来を見据えるに当たって上記のキーワード及びキーワード毎にどのような着眼点を持てば良いかについて、一例ではありますが、上表にまとめてみました。これらを参考にして、これからどのような世の中・社会になるかを想像・予測し、そうした世の中で「こんな金融機関があったらいいのにな」という観点で考えてみるというアプローチも有効かと思えます。

・なお、ここでは敢えてキーワードを6つに絞って見ましたが、勿論これらはそれぞれが独立した事象ということではなく、相互に関連し合っているものでもあります。そのように柔軟に各カテゴリーを行ったり来たりするように物事を捉えることで、考えが膨らんでいくものと思えます。

・また、具体的な提案を考える上で、1つのアプローチとして、例えば、我が国にはない制度であるものの、海外のある国に存在する金融関連の諸制度等を調査研究してみて、それが我が国の将来を見据えて新たな制度やサービスなどのスキームを考えるうえでヒントとなることがあります。ただ、その場合でも、おそらくある国の制度・スキームをそのまま我が国に導入してもうまくワークしないことが多いため、我が国に導入するためにどのような手当てをすべきであるか、といったアプローチで考えてみることも有効な手段ではないかと思えます。